

# 非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

## 金

### 【海外】

#### 1. 価格推移

8 月相場	高値	安値
ロンドン相場(\$/toz)	: 1,166.50 (24 日)	1,085.00 (6 日)
国内建値(円/g)	: 4,624 (21 日)	4,340 (4 日)
為替相場(円/\$、TTS)	: 119.90 (25 日)	126.12 (12 日)

8 月の海外金相場は 3 日に \$1,093.00/toz(トロイオンス)と \$1,100 台割れでスタート、上旬にかけては、前の月につけた 5 年 5 か月ぶりの安値は下回らなかったものの、原油の増産や米ドル高基調から軟調相場で推移した。しかし、中旬入りすると、7 日に発表された 7 月の米雇用統計が市場予想に届かなかったことに加え、米長期金利の低下に伴うドル売りから、ドルの動きとは逆の動きとなる金が反発、概ね \$1,110～1,120 での推移となった。この間の数回にわたる中国人民元の切り下げも金価格に有利に働いた。

さらに 19 日以降は、中国景気の減速懸念や新興国経済の混乱、原油安による産油国の貿易収支悪化などを受け、投資家の間で金による資産保全を図る動きが現れ、ほぼ 1 か月ぶりの \$1,150 水準へ上昇した。19 日に公表された米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨では米の利上げの時期が近づいていることが確認されたものの、金市場では 9 月に確実に利上げされるという決定打に欠けるとの見方が多かったことも、金価格にとって強材料となった。

週明けの 24 日には、世界的な株安を受けて、安全資産とされる金に逃避資金が流れ込んだことから騰勢を強め、\$1,166.50 とほぼ 1 か月半ぶりの高値をつけた。しかしながら、翌 25 日には中国人民銀行の金融緩和発表を受けてドル高が進み、金が売られたことで下落、27 日には \$1,119.00 と中旬以来の安値をつけた。翌 28 日は \$1,135.00 とやや反発して越月した。

#### 2. 為替相場推移

8 月の為替相場は 3 日に \$1=125.04 円(TTS 相場、以下同じ)でスタート、上旬にかけては、米国の早期利上げ観測の高まりから、\$1=125 円水準での円軟調相場が続いた。

中旬は週明けの 10 日から、中国人民銀行が人民元の対米ドルの基準値を数回にわたり大幅に引き下げたことをきっかけに、ドルが円を含む対主要通貨で買われたため、12 日には\$1=126.12 円と約 2 か月ぶりの円安・ドル高水準となった。しかし、その後は過度なドル高に対する警戒感や元切り下げの一段落から、概ね\$1=125 円水準での展開となった。

しかしながら、20 日は米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨の発表をきっかけにした 9 月の米利上げ観測の後退と米国債利回りの低下から円高・ドル安が進み、\$1=124.82 円をつけた。加えて、日経平均株価や中国・上海株式相場が軒並み下落したことも、投資家による「低リスク通貨」とされる円を買いドルを売る動きを促した。その後も、週末を挟んで、中国の景気減速を主因として世界的に同時株安が進んだことで、円買いが加速、25 日には\$1=119.90 円まで円高が進行し、本年 2 月以来約半年ぶりの円高・ドル安水準をつけた。ところが、26 日は米株高によりドルが反発、27 日も日経平均株価や上海株式相場の回復を受けてドル買いが進み、\$1=121.03 円まで円が下落した。月末にかけてはさらに円安が進み、31 日には\$=122.18 円をつけて越月した。

対ユーロに関しては、中旬にかけて€1=140 円水準へ下落したものの、下旬では世界的な株安を背景に€1=137 円水準まで上昇した。

## 【国内】

### 1. 建値推移

8 月の国内金山元建値は 3 日に 4,386 円/g(グラム)でスタート、上旬は 4,300 円台後半で推移していたが、中旬入り後は海外相場の反発から 4,400 円台から 4,500 円台へ上昇した。下旬入り直後の 21 日には 4,624 円まで上伸し、前月上旬以来の高値をつけた。しかしながら、その後は円相場の急激な高騰から続落、26 日は 4,400 円台を割り込んでしまい、ほぼ月初と同じレベルとなった。月末は、海外相場は横這い推移だったものの、円高が緩んだことで反発、31 日は 4,450 円をつけて越月した。

### 2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2015 年 7 月分=平成 27 年 7 月分)

生産	:	10,802 kg	(前月比 14.3%増、前年比 22.5%増)
出荷	:	9,675 kg	(前月比 8.3%減、前年比 5.6%増)
在庫	:	4,670 kg	(前月比 31.8%増、前年比 43.6%増)

(生産、出荷、在庫の出典は経産省生産動態統計調査)

7 月の生産は前月比、前年同月比とも増。前年同月比は 11 か月連続の増と増加基調。2011 年(平成 23 年)12 月の 11,366 kg 以来の高水準。出荷は前月比減だが、前年同月比では 2 か月連続の増。在庫は生産増から増加、3 月の 4.9t 以来の高水準。前年同月比も 2 か月ぶりの増。

## 【海外】

2015年8月のLME銅相場は中国の景気減速、世界同時株安、原油価格の急落などから\$5,100/t圏から\$5,000水準を試す展開となり、一時的に2009年7月以来となる\$5,000割れの場面もみられた。

中国経済が7月の財新/マークイット製造業景気指数(PMI)が48.2と2年ぶりの低水準に落ち込んだうえ、貿易額は5か月連続で前年水準を下回り、卸売物価は2009年10月以来の下げ幅となるなど景気減速に歯止めがかからないなか、人民銀行は輸出拡大に活路を見出すため、11日から3日連続で人民元を切り下げた。対ドル基準値は6.1162元から6.4010元へと4.7%切り下げられ、2011年8月以来の低水準となった。さらに、25日には貸出と預金の基準金利を0.25%引き下げ、預金準備率を0.5%引き下げる決定を下した。利下げは昨年11月以降5回目で、金利と預金準備率を同時に引き下げたのは2008年以來の異例の対応となる。

米国は7月の住宅着工件数が120.6万件(年率計算)と、2007年10月以来の高水準となり、新規失業保険申請件数は8月最終週末まで25週間連続で300千人を下回るなど好調を持続した。このため、9月利上げ観測が再浮上し、ドル高が続いた。

ギリシャ金融支援をめぐることは、14日のユーロ圏財務相会合で3年間で860億ユーロ支援することが正式合意され、デフォルトは回避されたが、財政緊縮策や構造改革を着実に実施することが条件となる。

中国経済のメルトダウン懸念や米国の利上げ観測から18日には上海株価が、21日にはニューヨーク株価が急落、24日はニューヨーク株価が一時1,000ドル以上暴落するなど世界同時株安となった。

さらに、原油価格は米国のオイルシェールの増産、イランの輸出拡大観測、中国の需要減少などを材料に、14日には3月につけた直近安値を下回り、21日には一時、2009年3月以来の\$40/bbl割れとなった。

供給障害要因としては、PTスメルティングのグレシック銅製錬所(インドネシア)は冷却システムの破損により、6月19日、溶錬工程の操業の停止を余儀なくされた。新たな吸水管の設置作業が行われており、9月初めまでに再開される見通し。

BHPビリトンのオリンピックダム銅鉱山のスベダラ選鉱場(豪)は7月末にフル操業を回復した。電気システムのトラブルのため1月28日から選鉱設備1基が休止していた。これにより60~70千tの減産が見込まれる。

コデルコ(チリ)は8月2日、ミニストロアレス銅鉱山の操業を停止した。下請け労働者が操業を妨害したことによるもの。12日にコデルコと下請け会社が労働条件改善交渉の開始に合意し、下請け労働者側はミニストロアレス、サルバドール事業所

の封鎖と占拠を解除した。17 日にはチュキカマタ鉱山の坑道で火災が発生し、鉱石のベルトコンベアー2 基が被害を受けた。

インペリアルメタルズは 8 月 5 日、マウントポリー銅鉱山(加)の生産を再開した。廃滓堆積場の堆積量が 4 百万tに達するまで稼働率 50%での操業が許可された。現在、排水許可手続や廃滓堆積場堆積システムの設計作業が行われている。

チリ北部の沿岸部が 8 月 8 日から 9 日にかけて暴風雨に見舞われ、パタチェ、イキケ、メヒジョネス、アントファガスタ、トコピジャ、アリカ等の港が一時閉鎖された。コデルコは 9 日にラドミロトミッチ、チュキカマタ鉱山の操業を停止したが、10 日に正常操業を回復した。

ドーランペルーのコブリサ銅鉱山(ペルー)で 8 月 11 日、労働者が同鉱山の閉鎖計画に抗議してストライキを開始したが、政府の仲裁により13日に中止した。同社は 8 月 28 日に清算され、同鉱山は 27 日に閉鎖される予定であったが、政府は同鉱山、ラオロヤ銅鉛亜鉛製錬所閉鎖を回避する方策を検討する専門委員会を設置した。

フリーポートマクモランカパー&ゴールドは 8 月 27 日、市況低迷のため 2016~2017 年の投資予算を削減し、銅を 68 千t/年減産する計画を発表した。マイアミ鉱山(米)の採掘を休止し、タイロン鉱山(米)は採掘を半減、エルアブラ鉱山(チリ)では採掘とリーチングパッドの積み上げを半減する。

アサルコは 8 月 28 日、銅価格下落のためヘイデン銅選鉱場(米)を無期限閉鎖し、レイ銅鉱山の酸化鉱体のストリッピング操業を縮小すると発表した。併せて、ヘイデンの投資予算を 2015~16 年で 110 百万ドル削減し、従業員数 211 名をレイオフする。これによる減産量は 30 千t。レイ鉱山の操業縮小は直ちに実施するが、ヘイデンの閉鎖には監督当局の認可が必要なため最低 60 日を要する。

需給状況については、国際銅研究会によれば、2015 年 1~5 月の世界の銅鉱石生産は前年同期比 3.6%増 9,321 千t、地金生産は 2.9%増の 9,264 千t、消費は 2.9%減の 9,260 千t、この結果、地金需給バランスは前年同期の▲534 千tから+4 千tへと供給不足が解消した。報告在庫は前年比 31.6%増の 1,511 千t、在庫/消費比率は 2.8 週間から 3.3 週間に上昇した。

鉱石生産の内訳は精鉱、SXEW とともに 4%増加した。インドネシア、チリの生産回復が主因である。ペルーは 6%増加、米国は 4%減少した。地域別にはアフリカが 2.2%、南アメリカが 3%、アジアが 12%、ヨーロッパが 1%増加したが、北アメリカとオセアニアは 3%減少した。鉱山稼働率は 86%から 85%に低下した。

地金生産の内訳は一次生産が 2%、二次生産は 8.2%増加した。国別には中国が 5%増加したほか、フィリピンが増加、前年第 1 四半期に鉱山操業が抑制されたインドネシアも回復した。コンゴ民主共和国も 12%増加した。チリと日本は 3%、米国は 6%減少した。地域別にはアフリカが 7%、アジアが 6%増加、アメリカは 1%、オセアニアは 23%減少、ヨーロッパは横ばいであった。精製工場の稼働率は 81%で横ばい

だった。

消費は中国の見掛け消費が 3%減少した。ネット輸入が前年比 13%減少したことによるもの。しかしながら、5 月の見掛け消費は 2014 年 12 月以来の高水準だった。中国を除く世界の消費は 3%減少した。昨年 9 月に輸出税を撤廃したロシアが 45%減少したことが主因。日本は 8%、EU は 6%減少した。地域別にはアジアが 3%減少（中国を除くアジアは 1%増加）、EU は 11%、オセアニアは 72%減少した。アフリカは 5.6%、アメリカは 3.8%増加した。

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

8/3 690    8/11 710    8/14 690    8/19 670    8/24 660    8/27 640  
9/1 670

### 2. 生産・出荷・在庫

平成 27 年 7 月の銅地金生産は前月比 0.4%増、前年同月比 1.8%減の 132.1 千tと前年比は 2 か月ぶりに減少した。出荷は各 6.7%増、0.6%減の 140.3 千tで前月比は 2 か月連続の増加、前年比は 4 か月連続の減少。内訳は内販が前月比 6.1%増、前年比 5.7%減の 86.7 千tで前年比は 3 か月連続の減少。輸出は各 7.7%増、9.0%増の 53.6 千tと 2 か月連続の前年比増。内販のうち電線向けは前年比 6.2%減の 55.8 千tで 2 か月連続、伸銅品向けは前年比 12.2%減の 25.0 千tで 3 か月連続の減少。在庫は前月比 6.4%減、前年比 0.4%減の 107.6 千tで前月比は 4 か月ぶり、前年比は 16 か月ぶりの減少となった。

### 3. 需要部門別動向

日本電線工業会によれば、平成 27 年 7 月の銅電線出荷は前月比 4.0%増、前年同月比は 2.8%減の 61.5 千t(推定)と 2 か月ぶりに減少した。うち内需は前年比 1.6%減の 59.8 千tと 2 か月ぶりの減少、輸出は 32.4%減の 1.7 千tで 4 か月連続の減少。内需の部門別には、電力が 8 か月連続で増加したが、電気機械は 10 か月、自動車は 5 か月、通信は 3 か月連続減少、建設電販とその他は 2 か月ぶりの減少となった。

日本伸銅協会によれば、平成 27 年 7 月の伸銅品生産は前月比 0.5%減、前年同月比 7.3%減の 65.4 千t(速報)と前年比は 5 か月連続の減少となった。うち内需向けは前年比 5.5%減の 55.0 千tと 9 か月連続の減少、輸出は 15.6%減の 10.3 千tで 4 か月連続の減少。品種別には半導体、コネクタ向けの銅条が 3 か月、エアコン向けの銅管は 9 か月、自動車端子向けの黄銅条は 4 か月、コネクタ向けの青銅板条は 3 か月連続の減少となった。

## 【海外】

2015年8月のLME鉛相場は中国の景気減速、世界同時株安、原油価格の急落などからベースメタル市場が全面安の展開となるなかを、前半は\$1,700/t水準、後半は2010年7月以来となる\$1,600台を低迷推移した。

中国経済が7月の製造業景気指数(PMI)が48.2と2年ぶりの低水準、貿易額は5か月連続の前年割れ、卸売物価は5年9か月ぶりの大幅な下げ幅となるなど景気減速に歯止めがかからないなか、人民銀行は輸出拡大に活路を見出すため、11日から3日連続で人民元を切り下げた。切り下げ幅は4.7%で、対ドル基準値は2011年8月以来の低水準となった。さらに、25日には貸出と預金の基準金利と預金準備率を引き下げる決定を下した。利下げは昨年11月以降5回目、金利と預金準備率を同時に引き下げたのは2008年以来の異例の対応となる。

米国は7月の住宅着工件数が2007年10月以来の高水準、新規失業保険申請件数は8月最終週末まで25週間連続で300千人割れとなるなど好調を持続した。このため、9月利上げ観測が再浮上し、ドル高が続いた。

ギリシャ金融支援をめぐることは、ユーロ圏財務相会合で3年間で860億ユーロ支援することが正式合意され、デフォルトは回避されたが、財政緊縮策や構造改革を着実に実施することが条件となる。

中国経済のメルトダウン懸念や米国の利上げ観測から18日には上海株価が、21日にはニューヨーク株価が急落、24日はニューヨーク株価が一時1,000ドル以上暴落するなど世界同時株安となった。

さらに、原油価格は米国のオイルシェールの増産、イランの輸出拡大観測、中国の需要減少などを材料に、14日には3月につけた直近安値を下回り、21日には一時、2009年3月以来の\$40/bbl割れとなった。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、国際鉛亜鉛研究会によれば、2015年1～6月の世界の鉛鉱石生産は前年同期比0.3%増の2,375千t、地金生産は2.1%減の5,134千t、消費は2.6%減の5,108千t、地金需給バランスは前年同期の+1千tから+26千tの供給過剰となった。

鉱石生産はアジアが2.3%、アメリカは1.2%、ヨーロッパは0.9%、アフリカは2.4%増加したが、オセアニアは8.0%減少した。国別には中国、ペルーの増加がオーストラリア、メキシコの減少に相殺された。地金生産はヨーロッパが2.5%増加したが、オセアニアは横ばい、アジアは1.7%、アメリカは7.5%、アフリカは2.0%減少した。国別にはカナダ、中国、ペルー、米国が減少した。消費はオセアニアが22.2%、アフリカは8.2%増加したが、アジアは1.0%、アメリカは6.2%、ヨーロッパは4.3%減少した。国別には米国、中国、韓国が減少した。地金の報告在庫は前年同期比9.9%減の

493 千t、在庫/消費比率は 2.5 週間から 2.4 週間へと横ばいであった。

中国は鉱石生産が 2.4%増の 1,083 千t、地金生産は 2.4%減の 2,048 千t、鉛精鉱輸入は 3.7%減の 414 千t、地金のネット輸出は 7 千tから 23 千tに増加した。この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫)は 2.4%減の 2,064 千tとなった。

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

7/13 280      8/3 270      8/17 278      8/24 268      9/1 263

8月の鉛建値は LME 鉛相場の続落から、前月と同じく軟調相場となった。

### 2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2015年7月分=平成27年7月分)

生産 : 17,686t (前月比 0.1%増、前年比 1.2%減)

出荷 : 18,228t (前月比 5.9%増、前年比 3.9%減)

在庫 : 26,589t (前月比 2.2%減、前年比 12.5%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

7月の生産は4か月連続の前月比増だが、前年同月比は2か月ぶりにマイナスへ。出荷は蓄電池向けの増加により、前月比増だが、前年同月比は2か月ぶりの減。蓄電池向けの増は円安によってもたらされた輸入品の割高感による一時的な国内品への回帰。在庫は前月比微減だが、前年同月比は35か月連続の増と高水準状態が続く。

### 3. 需要部門動向

7月の自動車生産台数は前年同月比 5.9%減の 841,812 台(速報値)となり、13か月連続で前年同月を下回った。

乗用車は前年同月比 13か月連続のマイナス、トラックも同3か月連続のマイナス、バスも同5か月ぶりのマイナスとなった。

7月の自動車輸出台数は前年同月比 0.4%増の 415,735 台となり、2か月連続で前年同月を上回った。

一方、7月の二輪車生産台数は前年同月比 18.3%減の 40,795 台と9か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会の調査によると、6月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、輸出用を併せた総合計で 1,825 千個(前年同月比 1%増)と上昇したが、自動車用以外の鉛蓄電池は 607 千個(同 1%減)と低下した。その結果、鉛蓄電池の出荷はトータルで 2,432 千個(同 1%増)と増加に転じた。

鉛関連製品生産統計

		6 月	7 月(速報値)
自動車	数量(台)	811,864	841,812
	前年同月比(%)	94.7	94.1
		5 月	6 月
自動車用鉛蓄電池	数量(鉛量t)	12,574	16,465
	前年同月比(%)	93.0	101.1

(出所:(一社)日本自動車工業会, 経済産業省生産動態統計調査)

亜鉛

【海外】

2015 年 8 月の LME 亜鉛相場は中国の景気減退、世界同時株安、原油価格の急落などでベースメタル市場が全面安の展開となるなかを \$ 1,900/t 割れでスタート、中旬には 2013 年 9 月以来となる \$1,700/t 台に下落し、月末にかけては 2010 年 6 月以来となる \$1,700 割れの場面もみられた。

中国経済は 7 月の製造業景気指数(PMI)が 48.2 と 2 年ぶりの低水準、貿易額は 5 か月連続の前年割れ、卸売物価は 5 年 9 か月ぶりの大幅な下げ幅となるなど景気減速に歯止めがかからないなか、人民銀行は輸出拡大に活路を見出すため、11 日から 3 日連続で人民元を切り下げた。切り下げ幅は 4.7% で、対ドル基準値は 2011 年 8 月以来の低水準となった。さらに、25 日には貸出と預金の基準金利と預金準備率を引き下げる決定を下した。利下げは昨年 11 月以降 5 回目で、金利と預金準備率を同時に引き下げたのは 2008 年以來の異例の対応となる。

米国は 7 月の住宅着工件数が 2007 年 10 月以来の高水準、新規失業保険申請件数は 8 月最終週末まで 25 週間連続で 300 千人割れとなるなど好調を持続した。このため、9 月利上げ観測が再浮上し、ドル高が続いた。

ギリシャ金融支援をめぐることは、ユーロ圏財務相会合で 3 年間で 860 億ユーロ支援することが正式合意され、デフォルトは回避されたが、財政緊縮策や構造改革を着実に実施することが条件となる。

中国経済のメルトダウン懸念や米国の利上げ観測から 18 日には上海株価が、21 日にはニューヨーク株価が急落、24 日はニューヨーク株価が一時 1,000 ドル以上暴落するなど世界同時株安となった。

さらに、原油価格は米国のオイルシェールの増産、イランの輸出拡大観測、中国の需要減少などを材料に、14 日には 3 月につけた直近安値を下回り、21 日には一時、2009 年 3 月以来の \$40/bbl 割れとなった。

供給障害事例として、ハドベイミネラルズのマントバ亜鉛鉱山(加)のストライキは国際機械航空労組(IAM)傘下の労組が8月28日、労働協約案を受け入れたことから全面收拾した。同鉱山では労働協約更改交渉が決裂し、労組は5月2日、一斉にストライキに突入したが、IAM以外の労組は6月2日までに交渉に合意リストを終結していた。

グレンコアのマッカーサーリバー亜鉛鉱山(豪)に閉鎖命令が下される可能性が浮上している。同鉱山に対しては地元住民が廃石堆積場の粉塵飛散、魚や家畜の鉛汚染被害などを訴えている。北部準州政府は同社に廃石が水に反応して生成される硫酸の中和計画の提出を要求している。また、同州では鉱山閉鎖後の原状回復費用の積み立てが義務づけられているが、同鉱山は2年前に拡張計画が認められたことから、州政府は積立金の増額を要求している。ジレス首相は同社がこれらの要求に応じない場合には閉山を命じる姿勢を示している。

需給状況については、国際鉛亜鉛研究会によれば、2015年1~6月の世界の亜鉛鉱石生産は前年同期比7.7%増の6,845千t、地金生産は9.4%増の6,994千t、消費は2.9%増の6,837千t、地金需給バランスは前年同期の▲249千tから+157千tの供給過剰に転じている。

鉱石生産はアジアが13.7%、オセアニアは9.0%、ヨーロッパは3.4%増加、アメリカは横ばい、アフリカは3.1%減少した。国別にはオーストラリア、中国、インド、ペルー、スウェーデンが増加した。地金生産はアジアが15.1%、アメリカは1.8%、ヨーロッパは0.7%増加、オセアニアは0.4%、アフリカは33.3%減少した。国別には中国、インドが増加した。消費はアジアが3.7%、ヨーロッパは0.9%、アメリカは1.4%、アフリカは9.1%増加、オセアニアは2.2%減少した。国別には中国が増加し、米国は減少した。

地金の報告在庫は前年同期比5.8%減の1,532千t、在庫/消費比率は6.0週間から5.4週間に低下した。

中国は鉱石生産が前年同期比11.8%増の2,544千t、地金生産は18.3%増の3,070千t、亜鉛精鉱輸入は51.4%増の604千t、地金のネット輸入は66.3%減の126千t、この結果、見掛け消費(生産+輸入-輸出±上海取引所在庫/国家備蓄)は3.4%増の3,100千tとなった。

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

8/17 274    8/20 271    8/25 250    9/1 268

7月の亜鉛建値はLME亜鉛相場の続落から、鉛同様、軟調相場となった。

## 2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2015年7月分=平成27年7月分)

生産	: 40,639t	(前月比 17.9%減、前年比 10.6%増)
出荷	: 51,537t	(前月比 15.6%増、前年比 5.8%増)
在庫	: 82,398t	(前月比 11.7%減、前年比 43.5%増)

(生産の出典は経産省生産動態統計調査、出荷・在庫は日本鉱業協会受払)

7月の生産は飯島製錬所と安中製錬所の定修から、4か月連続で前月比減となったが、前年同月比は2か月連続の増。出荷はめっき向けと輸出の増から2か月連続前月比増、前年同月比も4か月ぶりの増。在庫は前月比減だが、前年同月比は11か月連続の増。

## 3. 需要部門動向

7月の鉱工業生産指数は前月比0.6%減、前年同月比0.2%増の97.7(季節調整済、2010年=100基準、速報値、以下同じ)となった。前月比は2か月ぶりのマイナスだが、前年同月比は2か月連続のプラス。中国向けのスマートフォン(スマホ)部品など電子部品・デバイスの生産が落ち込んだ。自動車など輸送機械や生産機械も低下した。中国やアジア経済の減速が製造業の生産に影を落としている。経産省は「一進一退で推移している」という基調判断を据え置いた。

7月は15業種中10業種がマイナス。電子部品・デバイスの生産は前月比3.7%減、輸送機械は同1.4%減となった。

出荷指数は前月比0.3%減の96.3と2か月ぶりに低下、前年同月比も同じく0.7%減と2か月ぶりにマイナスとなった。一方、在庫指数は前月比0.8%減の113.7と再び低下に転じた。在庫率指数は同1.1%減の112.2。

大企業の生産見通しを示す製造工業生産予測指数では、8月が前月比2.8%の上昇、9月は同1.7%の低下と見込んでいる。

6月の亜鉛めっき鋼板生産(次工程用消費を除く)は前年同月比12か月連続の減と依然低迷。数量も9か月連続の100万台割れで、3か月連続の80万台。

6月の伸銅品生産量は65,653t(確報値、対前年同月比▲7.2%)(対前月比+6.9%)と4か月連続で前年比マイナスとなった。

黄銅製品では、黄銅条が8,010tと対前年比は3か月連続の減少で、4月以降8千t前後で低調に推移している。黄銅棒は15,013tと11か月連続の対前年比マイナスだった。

亜鉛関連製品生産統計

		5月	6月
亜鉛めっき鋼板	数量(t)	866,725	880,012
	前年同月比(%)	83.4	92.2
黄銅製品	数量(t)	25,763	27,387
	前年同月比(%)	88.7	91.8
亜鉛ダイカスト	数量(t)	1,554	1,738
	前年同月比(%)	88.9	95.5
亜鉛華	数量(t)	4,378	5,427
	前年同月比(%)	83.5	103.8

(出所:経済産業省生産動態統計調査)